



〈雜錄〉社會政策學會第七回大會記事

河津, 暹

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 15(6):1054*-1071

(Issue Date)

1913-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052142>



社會政策學會 第七回大會記事

法學博士 河津 暹

大正二年十一月一日竝ニ二日我社會政策學會
ハ第七回大會ヲ明治大學大講堂ニ開ク。第一日
ハ之ヲ昨年大會ノ際議決シタル如ク「勞働爭議」
ニ關スル討議ニ充テ、第二日ハ會員ノ社會政策
ニ關スル講演ニ充ツ。特ニ本會ニ於テ新例ヲ開
キシモノハ從來會員ノ討議ハ之ヲ公開シ一般傍
聽者ニ之ヲ聽カシメシガ自然討議ニ加ハルモノ
ハ社會ノ誤解ヲ招クヲ慮リ、其態度ヲ明ニスル
ニ急ニシテ、其問題ノ骨子ニツキ充分ニ意見ヲ
吐露スルコト能ハザリシヲ以テ、報告者ノ講演
ハ之ヲ公開スルモ會員ノ討議ハ會員ノミニ限リ
之ニ參加傍聽セシムルコト、シ以テ一面ニハ會
員ヲシテ其說ヲ充分ニ吐露セシメ、一面ニハ會

員ヲシテヨク其問題ノ眞諦ヲ悟ラシメンコトヲ期セリ。一般傍聽者ニハ多小嫌焉タルモノアルヤモ知ラザレドモ、其目的ハ實ニ上述ノ如キモノナレバ學會ノ趣旨ヨリスレバ或ハ之ヲ一進歩ト稱スルヲ得ベキガ如シ。尤モ本會之ヲナシタルハ實ニ試驗トモイフベク、若シ兩三會ニ亘リ之ヲ試ミテ、成績良好ナラバ兎角、若シ、良好ナラザル曉ニハ再ビ公開主義ヲ探ルヤモ未ダ知ル可ラザルナリ。本會ガ幸ニ會員一同ノ熱心ト社會公衆ノ同情トニ由リ年ヲ逐フテ隆盛ニ赴クヲ得タルハ大ニ慶バザルヲ得ザルナリ。夥多朝野知名ノ士ハ來賓トシテ臨場セラレ、都下多數ノ新聞社ハ社員ヲ派シテ本會ノ記事ヲ報道シ、更ニ數千ノ聽衆ハ前後二日ニ亘リテ毫モ倦怠ノ色ナク傾聽セラレタルハ本會ノ榮トスル所ナリ、本會員福田博士ハ懇親會竝ニ參觀等ニツキ執筆セラレタル由ナレバ予ハコ、ニ兩日ニ於ケル講演竝ニ討論ノ要旨ヲ摘録スル所アルベシ。

十一月一日午後一時開會シ「勞働爭議」ニツキ討議ヲナス。金井博士ハ登壇開會ノ辭ヲ述ベラル。先ヅ社會政策ノ何タルカニツキテハ世上之ヲ知ルモノ漸ク多ク、之ヲ數年前ニ比スレバ隔世ノ感アリト雖モ今日尙動モスレバ社會政策ト社會主義トヲ混同シ、本會ヲ目シテ社會主義ヲ鼓吹スルモノナリトナスモノアリ兩者ハ學術系統トシテ實務系統トシテ氷炭相容レザルモノナリ之ヲ混ズ可ラズト辯ジ、本年ハ明治大學ニ乞フテ大會會場ヲ貸與セラレン事ヲ計リシニ明治大學ハ本會ノ乞ヲ容レテ其講堂ヲ貸與セラレシノミナラズ夥多ノ利便ヲ供セラレシハ本會ノ最モ謝セザル可ラズ本年ノ討議ハ「勞働爭議」ニツキテナリ本問題ハ獨リ爭議其物ニ止ラズ其調停ヲ含ムモノナリ。十九世紀ハ實ニ勞働爭議ノ世紀ナリ、歐米諸國ハ之ガ爲ニ苦シミタルコト甚ダ多シ我國ニ於テハ今日マデ幸ニ勞働爭議ヲ見タルコト多カラズト雖モ我國經濟ニシテ益々進

步セバ泰西諸國ニ於テ見ル如クコノ種ノ問題相踵デ起ラズトモ斷ジ難シ、幸ニ社會政策上ノ施設宜シキヲ得バ、之ヲ根絶セシムルヲ得ルヤモ知ル可ラズ、タトヒ之ヲ根絶セシムルヲ得ザル迄モ其ノ慘害ヲ少クスルコトヲ得ベキヲ信ズ。本會ガ本問題ヲ選ビ豫メ研究スルノ趣旨正ニコニアリト説カル。

鶴澤法學博士ハ木下明治大學長ニ代リテ歡迎ノ辭ヲ述ベラル勞働問題ハ文明國ニ於テ避ク可ラザルモノナリ、貴會員ガ十年一日ノ如ク、コノ種ノ問題ニ没頭シ世論善導ノ任ニ當ラル、ハ社會ノ爲ニ謝セザルヲ得ズ、本明治大學ガ貴會ノ爲ニ一臂ノ力ヲ貸スコトヲ得タルハ本大學ノ光榮トスル所ナリト叮嚀ナル挨拶アリ。

次ニ平沼教授ハ本問ノ第一報告者トシテ登壇流暢明快ナル辯ヲ以テ先づ最近ノ事例ヲ引イテ英、佛、西、露、諾、米諸國ニ於テ今日尙昌ニ勞働爭議アルコト、從テ苟モ社會ヲ觀察スルモノハ

之ヲ看過シ得ザル大問題ナリト説明シ、次ニ根本問題トシテ社會ニ於ケル衝突紛爭ヲ概觀スルニ之ヲ利益ノ衝突ト階級ノ衝突トニ分ツヲ得ベシトテ歴史ノ事例ヲ引キテ之ヲ説明シ勞働爭議モ亦利益ノ衝突ト階級ノ衝突ニ外ナラズト辯ジドレッヂ氏ノ定義ヲ借りテ其定義ヲ解剖シ、利益ノ衝突ハ、賃金問題、勞働問題(食事時間問題)、勞働團體問題等ニヨリテ表ハル。利益ノ衝突ハヨク其原因ニ遡リテ之ガ解決ノ道ヲ講ゼバ其目的ヲ達スルコト必シモ難カラズ、然レドモ階級ノ衝突即チ資本家勞働者階級相違ヨリ來ル衝突ニ至ツテハ之ヲ解決スルコト易カラザルナリ。現今ニ於テハDemocracyハ驚ク可キ勢ヲ以テ發達シ來レリ。民主主義ノ要望スル所ハ機會均等ニアリ。古ヘニアリテハ業主ト使用人ノ關係ハ主從關係ナリ、然レドモ經濟組織ノ根本ガ一變シタル以上ハ到底主從關係ニヨリテ其階級衝突ヲ治メンコト望ミ得ベカラズ、壓セラレタ

ル労働者が團結ノ力ニヨリテ上ニ述べタル要求ヲ實行セントスルハ諸國ノ労働組合ノ發達ニ徴シテ歷々之ヲ見ルヲ得ベシ。壓セラレタル階級ガ漸次優者ノ位置ニ立タシムルニ非レバ—— Klassen Kampf ハ到底之ヲ調停スルコト能ハザルベシ。是レ労働問題ヲ研究スルモノ、先ヅ心得置ク可キコトナリト説明ス。

之ニツイテ田島法學博士ハ登壇、平沼教授ハ労働爭議ノ概論ヲ試ミラレタルガ予ハ「ストライキ」ニツキテ報告スル所アラント前提シ同盟罷業ハ工場閉鎖ト性質ヲ同ウス一ハ労働者側ヨリ行フ所ニシテ、一ハ資本金側ヨリ行フモノナルニ過ギズ。而シテ同盟罷業ハ見方ニヨリ之ヲ（一）單獨罷業ト連合罷業、（二）政治的「ストライキ」、經濟的「ストライキ」、（三）攻勢「ストライキ」、守勢「ストライキ」、（四）組織ノ備ハレルモノ備ハラザルモノニ分ツヲ得ベシトテ之ヲ説明シ轉ジテ其本質ニ及ビ、「ストライキ」ハ恰モ夫婦喧嘩

嘩ノ如シ労働者が資本金ニ對シテ「ストライキ」ヲ起スモ其本心ハ永久ニ資本金ト和合セザルコトヲ目的トスルモノニ非ズ寧ろ親睦ニ和合センコトヲ希望スレバコソ「ストライキ」ヲ起スナレ、然ルニ政府當局者動モスレバ其本質ヲ知ラズ、「ストライキ」ヲナシタルモノヲ目シテ暴動者トシテ法律ヲ適用スルコト苛酷ニ過ルコト少シトセザルナリ。泰西諸國ニ於テハ「ストライキ」甚ダ頻繁ナリゼボンスハ新聞紙上之ヲ見ザルコト甚タ稀ナリト嘆ジタリトイフ我國ニ於テハ未ダカクノ如キニ至ラズ然レドモ其ノコ、ニ至ラザルハ畢竟我國經濟ガ幼稚ナルガ爲ノミ、更ニ「ストライキ」ト法律トノ關係ヲ見ルニ古ニアリテハ法律ハ之レヲ禁ジ之レヲ犯シタルモノヲ嚴刑ニ處セリ、然レドモ労働組合起ルニ及ビテ遂ニ right of strike ヲ認メザルヲ得ザルニ至レリ。但シ「ストライキ」ノ際暴力ヲ用ヒ刑法等ニ觸ル、モノハ之ヲ罰スレドモ「ストライキ」其物

ヲ以テ違法ノ行爲トハ認メザルニ至レリ是レ先進國ニ於ケル思想ノ變遷ナリ。我國ニテハ明治三十三年發布セラレタル治安警察法アリ其第十七條ニ「ストライキ」ニ關スル規定アリ、其文字通りニ解スレバ「ストライキ」其物ヲ暴行ト認メザルガ如シト雖モ司直ノ府動モスレバ之ガ解釋適用ヲ誤ルコトアリ、コノ規定ヲ廢スルカ少クトモ之ヲ改ムルヲ要ス、幸ヒ我國ニテハ社會主義ノ傾向ヲ見ルコト少ク況ンヤ「サンジカリズム」ノ如キハ未ダ其萌芽スラ認ムルヲ得ズ今ノ間ニ豫メ之ニ備ヘ經濟的見地ヨリ之ヲ防止スルノ道ヲ講ゼザル可ラザルナリト結ベリ。

第三報告者トシテ氣賀教授ハ主トシテ勞働爭議ノ停調策ニツキ報告アリ。勞働爭議ハ利益ノ衝突其骨子タルニ相違ナキモ之ヲシテ紛擾ヲ來シ經濟社會ヲシテ其弊ニ堪エザラシムルモノハ實ニ感情ノ衝突其因ヲナスコト多シ。故ニ勞働爭議ヲシテ圓滿ナル解決ヲナサシムル道ハ資本

家ト勞働者トノ精神上ノ融化ヲ計ルニアリ。資
本家勞働者互ニ同情ノ眼ヲ以テ協議ヲナサバ其
爭議ノ解決ノ如キハ蓋シ易々タルベシ、然レド
モ其事ニシテ望ミ難シトスレバ第三者ノ介媒ヲ
必要トス。第三者ノ介媒ニ二法アリ。調停及ビ
仲裁是ナリ。調停ハ第三者ガ兩者ノ間ニ立チテ
意思ヲ疏通セシムルコトナリ、普通ハ雙方ノ申
分ヲ相手方ニ通ジ其一致ヲ見ルマデ盡力スルコ
トナレドモ、時ニ或ハ仲介者其意見ヲ示シ以テ
雙方ノ意ノ融和ヲ計ルナリ獨、米、埃ニテハコ
ノ種ノ調停法ヲナス。調停ノ方法ヲ講ジテモ尙
問題ヲ解決スルコト能ハザレバ第二ノ方法ヲ用
フ之ヲ仲裁トイフ即チ第三者ガ雙方ノ申分ヲ聽
キ之ガ裁決ヲナシ、係爭者ハ其裁決ニ從イテ問
題ヲ解決スルナリ。仲裁ニ二種アリ任意的ノモ
ノト強制的ノモノトナリ。今諸國ニ於ケル調停
仲裁制度ノ發達ヲ按ンズルニ、英國ニテハ一八
四四年絹絲業ニ關シ調停ノ爲ニ雇主ト勞働者ト

ガ各同數ノ委員ヲ出シテ協議セシメタルコトアリ後六十年建築師ノ爭ニツキテモ雇主ト勞働者ヨリ同數ノ委員ヲ出シ調停仲裁ヲナサシメタル爾來コノ方法弘ク行ハル、ニ至レリ政府モ遂ニ調停法ヲ發布シ勞働爭議ノ場合ニハ先ヅ調停局ノ書記之ガ調停ヲ試ミ、次デ常設委員會ガ之ニ當リ、更ニ其效ヲ見ザル時ハ調停局ノ全院委員會ガ之ガ調停ニ當レリ。而シテ仲裁ハ雇主並ニ勞働者ヨリ二名ノ仲裁者出デ之ヲ仲裁ス、時ニ或ハ裁判官之ニ加ハルコトアリ。米國ニ於テハ州ニヨリ其制度ヲ同ウセズ、或ハ仲裁調停局アルモノアリ雙方ヨリ各一名ヲ出シ更ニ一名ヲ加ヘテ仲裁調停ヲナサシムルモノアリ、ニユーヨークノ如キハ二大政黨ヨリ各一名、勞働組合ヨリ一名ノ調停者ヲ出スト雖モ大體ニ於テハ係爭者雙方ヨリ各一名ノ調停者ヲ出ス。鐵道勞働者ノ爭議ニツキテハ中央政府ガ之ニ關與スナリ、之ニツイテ獨、佛、白、瑞、和等ノ同制度ヲ略說シ更

ニニユージー・ランドニ及ビ、同國ニテハ一八九四年以來強制仲裁制度ヲ採用セリ即チ勞働組合ニ法人格ヲ認ムルト同時ニ資本金ニモ組合ヲ作ラシメ雙方ヨリ委員ヲ出シ、仲裁局ヲ組織セシム。若シ爭議起ラバ之ヲ仲裁局ニ提出ス。仲裁局ハ若干ノ委員ト之ニ裁判官ヲ加ヘテ仲裁ニ當ラシム。其仲裁々判ハ強制的ニシテ制裁アリ。其制裁ガ實行セラル、ヤ否ヤハ工場監督官之ヲ監督ス。要之強制的仲裁ノ方法ヲ採ルモノアレドモ、多クハ任意的仲裁方法ヲ採ルナリ調停仲裁ニシテ良果ヲ收メントスルニハ、(一)雇主及勞働者雙方ニ團體組織アルコト、(二)爭ヲ解クニ當リ互ニ相手方ノ人格ヲ尊重スルコト、(三)雙方共ニ公平ナル第三者ノ介入ヲ認ムルコト、(四)解決スベキ目的ノ確定セルコト、(五)雙方ガ主張ヲ重シ徒ニ之ヲ誇張セシメザルコトヲ要ス。而シテ仲裁ハ強制ニアラザレバ充分ノ效果ヲ收ムルコト難カルベシト說ケリ。時ニ既ニ薄

暮ニ近ケレバ司會者桑田法學博士ハ立チテ委員會ノ決議ニ本キ討議ハ會員ノミ之ニ参加スルコトニ決セリト宣言シテ、同會ヲ閉ヂタリ。

午後六時本會々員ハ樓下ノ一室ニ集リ、午後ニ次デ討論會ヲ開ケリ。山崎博士議長席ニ就キ會員ハ順次其意見ヲ陳ベタリ。第一席ニ山本京都大學助教授ハ立チテ、予ハ本日諸先輩ノ報告ヲ聞キ大ニ疑ノ存スルモノアリ、諸氏ハ勞働者ガ「ストライキ」ヲナスハ當然ノ事ニシテ毫モ咎ムベキモノナシトナスモノ、如シ。然レドモ「ストライキ」ハ經濟機關ノ活動ヲ止メ經濟社會ニ害毒ヲ流スコト少シトセズ、之ヲ抑ヘザル可ラズ。今日我國勞働者ノ爲ニ計ルニ其人格等ノ改善ヨリ急ナルハナシ。先覺者ガ「ストライキ」ヲ獎勵スル如キハ其意ヲ得ズ、若シ資本家勞働者ノ間ニ立チテ調停等ノコトヲナスハ蓋シ政府ノ事業ナリ云々ト述ブ。之ニ次デ桑田博士ハ曰ク予ハ諸君ノ討論ノ問題ヲ提出セント欲ス治安警察法ノ

改正ナリ。同第十七條ニハ暴行強迫ノ伴フ同盟罷業ト誘惑煽動ニ由ル同盟罷業ヲ罪セリ暴行等ノ伴フモノハ暫ク措キ誘惑煽動ニ由ルモノヲ罪スル如キハ其意ヲ得ズ誘惑煽動ハ同盟罷業「エツセンス」ナリ之ヲ罪スベシトイハ、即チ同盟罷業ヲ罪スルニ當ラズヤ當ニ改正セザル可ラズ我國ニテハ調停機關ハ政府ノ事業ナラザル可ラズトノ山本君ノ說ニハ賛成ナリ。工場監督官ニ調停仲裁ヲナス權限ヲ與フルガ最モ良カラン問題ハ強制ヲ行フヤ否ヤノ點ニアリ云々。第三席中島高等師範學校教授ハ桑田君ノ第一ノ點ニツキテ疑アリ。桑田君ノ説明ト田島君ノ説明トハ異ル所アリ。予ヲ以テ見レバ誘惑云々ハ惡意アルモノト解セザル可ラズ、即チ惡意アルモノヲ罰セバ可ナリ故ニ改正ノ必要アラザルナリ云々、第四席添田博士ハ立チテ、先刻來予ガ曾テ用ヒタル主從關係ノ文字ヲ捉ヘテ云々スルモノ少カラザリシガ予ガ主從關係トイヒシハ命令服從ノ

關係ヲイヒタルニ非ズ、敦キ情誼ナリ懇情ナリ田島君ノ如ク之ヲ夫婦關係ト稱スルモ可ナリ。諸君ハ徒ラニ文字ノ末ニ拘泥スルコトナキヲ希望ス。先刻平沼君ハ利益ノ問題ト階級ノ問題トアリ前者ハ解決シ易キモ後者ハ解決シ難シトイハレタリ階級ノ爭ノ如キハ情誼ニ由リテ解決スルヨリ他ニ道アラザルナリ。謂フニ本問題ノ如キハ一旦爭議起リテ之ガ調停ノ道ヲ講ズルハ末ナリ宜シク其本ニ遡リテ資本家ト労働者トノ間ニ爭ナカラシムルコトヲ要ス。予ガ情誼ヲ説ク所以ノモノコ、ニアリ云々。

第五席田島博士ハ立チテ曰ク本日ノ報告ニ夫婦關係ノ文字ヲ用ヒタル所以ノモノ主從關係ニテハ命令服從ノ關係ト誤解セラル、虞アリシガ爲ナリ。添田博士ガ主從關係ハ情誼ヲ本トストイハレタルガ故ニ予ノ見ル所ト異ナル所ナキモノ、如シ。治安警察法ノ改正ハ賛成ナリ云々。
第六席高野法學博士曰ク第一山本君ノ説ニハ

全然不賛成ナリ、山本君ハ一方ニfriendly society & trade union ニハ賛成セラル、ニ拘ラズ、労働者ノ改善修養ニ力ヲ用フベキモノナリト説カル、ニ至ツテハコレ等ノ組合ハ無用ナリトイフニ近カルベシ。其對内の方面ト對外的方面ト如何ニシテ之ヲ結び付ケントスルヤ對内的方面ハ對外的方面ナクシテ決シテ望ム可ラザルナリ或ハ對外的方面ハ國家ガ之ニ當レバ可ナリトイハル、ヤモ知ル可ラズト雖モ、コレ社會主義ノ世ノ中カ中世ノ世ノ中ヲ想像セラル、モノナリト博士ハ更ニ話頭ヲ轉ジテ治安警察法ニ及ビ、コノ條文ノ如キハ兎角濫用セラル、恐アリ其結果ハイフマデモナク労働者ニ不利益ヲ來スナリ故ニ之ヲ廢止センコトヲ希望スト述べ、更ニ話頭ヲ轉ジテ添田博士ガ主從トイフ文字ヲ捨テ、Social solidarity トイハル、ニ至テハ頗ル同感ナリ但シSocial solidarity ハ互ニ人格ヲ尊重スルガ主ナリ然ラザレバ其理想ヲ出現スル能ハズ労働

者ハ今日法律上資本家ト同等ナルモ事實ニ於テハ同等ニハアラザルナリ云々。

第七席鈴木學士ハ曰ク先刻來治安警察法ノ適

否ニツキテ議論アリタルガ其實際ノ運用ニツキテ予ノ與リ知ル所ニテハサマデ不都合アラザルモノ、如シ。即チコノ種ノ問題ノ起ルヤ勞働者ノ主ナルモノガ予ノ許ニ來リ相談スル所アリ。其ノ陳辯スル所ヲ聞キ其問題ノ起レル警察署ニ至リ、予ハ卿ト協力シテ解決セント欲ス。予ノ

意見ハ云々ナリ予ハコノ意見ヲ以テ運動セント欲ス幸ニ暫ク傍觀ノ位置ニ立タレンコトヲ乞フトイヘバ遂ニハ其目的ヲ達シ解決スルヲ得ルナリ。治安警察法アルモ差支ナキモノ、如シ。又仲裁ノ方法ニツキテ議論アリ國家ノ強制的ニナスガヨロシキヤ工場監督者ニ之ヲナサシムルガヨキカノ論アレドモ、我國ニテハ政府ガ悉ク之ヲ行フコト不可能ナル可シ。成程我國ノ勞働者ノ品性ハ概シテ劣等ナルニ相違ナシト雖モ、其

少數ノモノハ向上發展ノ精神ニ富ムガ故ニ強制的ニナスハ得策ニ非ズ、資本家勞働者雙方ヨリ委員ヲ出シテ誤解ヲ解クヲ可トス云々。

第八席山本教授ハ再ビ立チテ高野博士ハ予ノ意見ヲ反駁セラル、モ尙之ニ服スルコト能ハズ勞働者ヲシテ勞働組合ヲ設ケシムルニハ異論ナシ、然レドモ勞働組合ヲシテ専ラ其組合員ノ生活ヲ安易ニシ其幸福ヲ進ムルヲ主眼トスベキモノナリト思フト陳ブ。

第九席福田博士ハ曰ク經濟組織ニシテ今日ト變リナク、經濟ノ進歩ニシテ息ム所ナクンバ勞働爭議ハ必然來ラザル可ラズ之ヲ起サシメザラムトスルモ蓋シ能ハザルナリ。山本君ハ勞働組合ヲ以テ道德的團體トナサンコトヲ希望セラルルモ、コレ又架空ノ論トイハザル可ラズ。治安警察法ニアル條規ノ如キハ勿論廢セザル可ラズ世界何レノ國ニカカクノ如キ法律ヲ布スルモノアラシヤ予ガ之ヲ廢セントスルハ畢竟之ヲ保存

スルハ我國辱ナルガ故ナリ云々。

第十席田島法學博士曰ク刑法ニテモ亦暴行等ノ伴ヘル同盟罷業ハ之ヲ罰スルヲ得ベシ。治安警察法ハ之ヲ廢サズトモ其文字ヲ明ニシテ、裁判官等ヲシテ濫用セシメザル必要アルヲ覺ユ。

第十一席桑田法學博士曰ク予ハ治安警察法制定當時ノ事情ヲ知レリ。司法官連中ハコノ條文ノ文字ガ不明ナルノ理由ヲ以テ反對シタルガ、行政官ハ之ヲ制定スルノ必要アリトテ通過セシメタルモノナリ、田島博士ノイハル、如ク文字ヲ尙明瞭ニスルハ異論アル可ラズ、然ラザレバ之ヲ廢止スルヲ可トス。山本君ニ問フ、資本家ノ行フ工場閉鎖ハ如何ニ思ハル、ヤ。

第十二席山本助教授、諸君ノ予ノ說ニツキイハル、所ハ多少ノ誤解ヲ含ムモノ、如シ、ヨロシク、文字ノ末ニ走ラズシテ意ノアル所ヲ汲マレンコトヲ望ム「ロックアウト」ハ勿論宜シカラズト考フト應フ。

第十三席高野法學博士曰ク、予等ハ山本君ノ說ヲ誤解スルニ非ズ、而モ之ニツキテ論ズルハ蓋シ思想ノ違ナリ。予ノ主張スル所ハ勞働組合ガ勞働者ノ位置ヲ高メ、利益ヲ進メントスルモ實行ノ之ニ伴フモノナクンバ目的ヲ達スルコト能ハズトイフニアリ。

第十四席山本助教授之ニ應ジテ曰ク予ハ決シテ勞働組合ハ實行スベカラズトイハズ「ストライキ」ハ宜シカラズトイフナリ調停仲裁ノ如キハ實行ニ非ズシテ何ンゾヤ高野博士ノ實行ハ必ズ「ストライキ」ニ陷ルトイフ論ハ未ダ解スルコト能ハズ。

第十五席福田法學博士再ビ立チテ一派ノ諸君ハ「ストライキ」ヲ蛇蝎視セラル、モ、若シ之ヲ禁ジナバ更ニ危險ナル「サボタージュ」等ヲ見ルニ至ラン。予ハ諸國ニ於ケル勞働問題ノ趨勢ヲ見テ、カクノ如ク信ゼザルヲ得ズ云々。

第十六席添田法學博士曰ク福田君ハ諸國ニ於

テハカクノ如キ歴史アリ、我國モ亦其運命ニ陷ラザルヲ得ズトイハル、モ、先進國ノナス所ヲ研究シ批評シ其長ヲ取其短ヲ捨テ、先進國ガヨク解決シ得ザル所ヲ解決スルハ實ニ快心ノコトニ非ズヤ我が國經濟學ハ正ニカクノ如キ使命ヲ有スルナリ、云々。

第十七席内田文學博士曰ク資本家ト勞働者ガ互ニ尊重シ合フハ最モ望マシキコトナリ添田博士ノ情誼論ニハ賛成セザルヲ得ズ所謂實行ノ方法モ直チニ「ストライキ」ノ手段ニ訴ヘズトモ使フモノハ使ハル、モノヲ思ヒ使ハル、モノハ使フモノ、事情ヲ酌マバ自ラ圓滿ナル解決ヲ見ルコト難カラザルベシト思フ。外國ノ風習ニハ善キモノアリ惡シキモノアリ、「ストライキ」ノ如キハ惡シキ風習ナリ之ヲ避ケンコトヲ希望ス。

第十八席福田法學博士曰ク添田博士ハ經濟學ヲ以テ *Anght to be* ノ舉トセラル、ニ似タリ、予ハ之ヲ信ゼズ、過去ニ於テ然リ現在ニ於テ然リ

ト説明スベキモノナリ、之ニ由リテ指導スルハ政治家ノ任務ニシテ學者ノ任務ニ非ズ。

第十九席服部教授曰ク諸君ハ未ダ仲裁ハ强制的ニナスベキヤ否ヤニツキ論ゼラレザルモノ、如シ一言スルノ要アリ、コノ問題ニツキテハ強制スベキモノニ非ズ、強制スルモ效ナクシテ却テ害アリト其理由ヲ説ク

時既ニ九時ヲ過ギ興湧イテ止ル所ヲ知ラズ、山崎議長ハ討論終結ヲ宣シ、討論ハ本夕ノ如ク公開ヲ禁ズルガ討論ノ目的ニ副フモノナリヤ否ヤ諸君ニ於テ御考ヘ置カレタシ云々ト希望ヲ陳ベラル。

十一月二日社會政策大會講演會ヲ開ク。傍聽者ハ前日ノ如ク殆ンド場ニ滿テリ。九時半開會ス。

第一席宮島學士登壇「少額保險論」ト題シ、少額保險トハ保險額ノ小ナル一種ノ保險ナリト説明シ遞信農商務兩省ニ於テハ之ガ調査ニ從事シ

民間ニ於テモ三會社ハ專業ニ一會社ハ兼業トシテ之ヲ營マンコトヲ出願セリトテ本邦ニ於ル本問題ノ沿革ヲ略述シ次デ其特質ニ及ビ(一)保險金額ノ小ナルコト(二)醫的審査ヲ行ハザルコト(三)保險金遡源期間若クハ支拂停止期間ノ存スルコト(四)保險料ノ簡易ナルコト(五)保險料ノ短期拂ナルコト(六)集金人ヲ派スルコト(七)使用スル死亡表ヲ用フルコト(八)小兒ノ保險ニ應ズルコト(九)營業費ヲ要スルコト多キコトノ九項ヲ舉ゲテ諸外國ノ事例ヲ引イテ之ヲ説明シ其官營ノ可否ニ移リ官營說ヲ主張セリ。其理由ハ一ハ其保險ノ性質ニアリ即チ同保險ハ營業費ヲ要スルコト甚ダ多キモノナレバ之ヲ官營トセバ郵便局等官ノ機關ヲ利用スルコトヲ得ルノミナラズ、競走シテ得意ヲ奪ヒ合フガ如キコトナカル可キガ故ニ營業費ヲ節約スルコトヲ得ベキナリ二ハ我國ノ事情ナリ、即チ保險業界ニ於テ現今少額保險ヲ託スルモノナク從テ之ヲ官營トス

ルモ、其利益ヲ害スルモノニ非ズ却テ保險思想ヲ普及セシメテ利益アル可シ。我國ニ於テ保險業界ノ缺欠ヲ補フモノトイハザル可ラズ、或ハ官營ヲ難ジテ官吏ノ無能ヲ云々スルモノアレドモ、是レ爲ニスル所アルカ、若シクハ事實ヲ知ラザルモノ、言ノミ、之ヲ以テ官營說ヲ破ルニ足ラズト結ベリ。

第二席高城「ドクトル」登壇「利子歩合ト國民經濟」ト題シ、國民性ガ明ニ利子歩合ニ表ハレ居ルコトヲ説明シ世人ノ猛省ヲ望マント欲スト喝破シ、先ヅ利子歩合決定ノ諸學說ヲ説明シ、資本ノ需要ト供給ガ一致スル點ニ於テ定リ其高低ハ企業心ノ厚薄貯蓄心ノ多少ニ關聯スト斷定シ近年我國ノ利子歩合ハ漸ク高ク八分以上ニシテ諸外國ニ比シ遙ニ高位ニアリ、物價ノ騰貴モ其原因ナルニハ相違アル可ラズト雖モ、我國利子歩合ガ諸外國ニ比シテ高キ理由トナスヲ得ズ他ニ原因ヲ求メザル可ラズ、之ヲ需要ノ方面ニツ

キテ觀察スレバ企業、行政費陸海軍費ノ諸項目ニ就キテ調査スルニ陸海軍費ノ膨脹ノ速度ハ企業ノ膨脹等ニ比シテ遙ニ高位ニアリ、是レヤガテ其需要ヲ増加セシメタル原因ナリ、然ルニ供給ノ方面ニツキテ之ヲ觀察スレバ到底其需要ニ應ズルコト能ハザレバ頻リニ辭ヲ設ケテ外債ヲ募集シテ其缺ヲ補フ。其ノ外債ヲ募集スルコト頻繁ナルガ爲ニ我國ノ外國金融市場ニ於ケル信用ノ程度ハ恰モ支那ト伯仲ノ間ニアリ。是レ決シテ我國ノ名譽ニハ非ザルナリ。而モ外債募集ノ結果ハ金利ノ低落トナリ、不急事業ノ勃興トナリ、貯蓄心ノ減少トナル、我國人ノ貯蓄心ノ減少シ、奢侈ノ増進シタルコトハ歷々トシテ統計ヲ以テ證明スルコトヲ得トシテ夥多ノ統計數字ヲ以テ説明ヲ加ヘ、カクノ如クンバ我國經濟ノ前途ハ毫モ樂觀ヲ許サズ、之ガ救濟策ハ須ク先ヅ外資輸入ヲ打切ルニアリ、之ガ爲ニ金利ハ暴騰シ、不景氣ヲ招クヤモ知レザレドモ之ガ爲

ニ國民ノ貯蓄心ヲ旺盛ナラシメ、不急ノ事業ハ淘汰セラレ、利子歩合モ亦適當ノ水準ニ歸シ、國民經濟ヲシテ健全ナラシムルヲ得ベキナリト結ベリ。

第三席内池教授登壇「僥倖心ノ意義」ト題シ先ヅ僥倖心ノ意義ヲ陳ベ理外ノ理ニ由リ、豫測ス可ラザル利益ヲ得ントスルコトヲ要素トスルコトヲ說キ、之レガ經濟方面ニ顯ハルレバ賭博トナルナリ。賭博ハ原始時代ニ於テハ有力ナル社會制度ナリ、今日尙種々ノ方面ニ亘リテ勝負ヲナスハ畢竟野蠻時代ノ遺風トイハザル可ラズ。賭博ノ現今ノ國民經濟ニ及ボス影響ヲ考フルニ現代ハIndustrialismノ時代ナリIndustrialismノ心的要素トシテハ營利主義ト理智主義トヲ建設的トナサル可ラズ。

營利主義ハ人類ノ競争の野性ニ基キテ起リタル財產獲得ノ精神ト稱スルヲ得ベク現今社會各方面ヲ支配セリ。更ニ現代ハ機械應用盛ナレバ

人心益々計算的トナリ理智的トナレルナリ。然ルニ賭博ハ一見營利主義ニ類スルガ如シト雖モ理外ノ理ニ由リテ利益ヲ得ントスルモノナレバ營利主義トハ相容ル、モノニ非ズシテ經濟ヲ破壞スルモノナリ。現ニ經濟社會ノ破壞トモイフ可キ恐慌ノ如キハ賭博慾ニヨリテ誘致セラル、モノナリ。其理智主義ト相容レザルハ一層明白ナリ。要之賭博ハ經濟社會ノ破壞的分子ナリ、然ルニ賭博ハ近年益々旺盛ナル傾向アリ。其原因ハ物質主義ノ流行ト、勞働社會ノ單調ニアルモノ、如シト論ズシヤドウエル氏ノ所説ヲ引イテ英國ニ於テスラ近年賭博ノ流行益々盛ナルコトヲ證シ、カクノ如キハ經濟社會ノ爲メ決シテ慶スベキ現象ニハ非ズ、之ヲ救済スルハ徒ニ法律ヲ以テ之ヲ禁遏セントスルヨリハ、人類ノ心ニ潜メル勸カントスル精神ヲ振興スルヲ努ムルヲ以テ得策トスト斷ゼリ。

時ニ午後零時十五分ナリシヲ以テ司會者ハ暫

時休憩ヲ宣シ會員等午餐ヲ喫シテ後一同講堂ノ前ニ集リ、紀念ノ爲メ撮影ヲナス。

午後一時十五分再ビ開會金井博士司會者トナリ次會ノ大會委員ノ選定ヲ會員ニ諮ル、桑田博士ノ動議ニ由リ司會者ノ指名ニ一任スルコト、ナリ、金井博士ハ新ニ八名ノ委員ヲ指名シ之ニ幹事三名ヲ加ヘテ次會ノ委員ト定ム。

第四席河津博士登壇「歐洲ニ於ケル公開市場」ト題シ、近年都市ガ膨脹スルニ從ヒ如何ニセバコレ等多數ノモノニ食料品ヲ最モ新鮮ニ、最モ廉價ニ供給スベキヤノ問題生ゼサルヲ得ズ、公開市場ノ如キハ其目的ニ出デタルモノナリ、而シテ歐洲ノ公開市場ハ其起源ヨリイヘバ經濟的原因ヨリモ衛生的原因其重キヲナスモノナレドモ、其結果ヨリイヘバ市民ヲシテ最モ廉價ニ食料品ヲ得セシム。歐洲ノ都市ニシテ公開市場ノ必要アリトスレバ我國ノ都市ハ更ニ其必要アリ何トナレバ我國ノ商業組織ハ不完全ニシテ生産

者ヨリ消費者ノ手ニ入ルマデニハ多數ノ者ノ手ヲ經ザル可ラズ、從テ其價ヲ騰貴セシムルコト少カラザレバナリ。歐洲都市ニ於ケル公開市場ヲ見ルニ中央市場ト小賣市場トガ巧ニ連絡ヲ有チ其目的ヲ達ス、而シテ中央市場ノ位置ハ交通ノ便宜シク外部ヨリ貨物ヲ移入スルニ最モ便ニシテ而モ成ルベク都市ノ中心ニ近キモノナラザル可ラズト論ジ諸大都會ニ於ケル實例ヲ引イテ之ヲ説明シ、更ニ轉ジテ公開市場ハ官營ナラザル可ラズ、市場ヲ夥多ノ小區ニ區劃シ生産者等ニ對シテ一定ノ料金ヲ徵シテ之ヲ貸與シ、一般人民ヲシテ直接ニコレ等生産者ト接觸セシムベシトテ、伯林ノ市場ノ設備ヲ説明シ、其經濟上ノ影響ハ、之ガ爲ニ商業組織ヲ簡短ニスルヲ以テ價格ヲ低廉ナラシムルノミナラズ、市中ノ普通ノ小賣商人ヲ牽制シテ價格ヲ高カラシメザルノ效アルベシ、何トナレバ中央市場モ小賣市場モ一定ノ價格ヲ以テ食料品ヲ賣捌クヲ以テ普通ノ

小賣商人ニシテ價格ヲ高クシテ以テ利益ヲ得ントスレバ公開市場ニ奔ツテ所要ノモノヲ求ムルニ至ルベケレバナリ。我國ニテモ歐洲都市ニ倣ヒテ公開市場ヲ設置スルノ急務アリト結ベリ。

第五席内田文學博士登壇「古代支那ニ於ケル社會問題」ト題シ古代支那ニ於テモ人種問題ト社會問題トガ歷然トシテ存シタリキ人種問題ハ漢人種ト異人種トノ問題ナリ即チ漢人種ハ如何ニシテ夷狄ヲ同化セシムルヤノ問題ナリキ。政治家學者ノコノ問題ニ對スル態度ヲ概觀スルニ自ラ二派アリ一ハ文治主義トモイフベク一ハ武斷主義トモイフ可シ前者ハ放任無爲ヲ主眼トシ自ラ異人種ヲシテ德ニ化セシメザル可カラザルヲ主張シ後者ハ積極主義トモ稱スベク拓地殖民等ニ由リテ之レヲ同化セシメザルベカラザルヲ說クナリ、其ノ論ズル所今日ノ帝國主義ニ近似ス、其ノ社會問題モ多クノ點ニツキテ近世ノ社會問題ニ類スルモノアリ蓋シ前漢ノ末葉マデ

ハ支那社會ハ頗ル近世式色彩ヲ有セリ而シテ當時ノ社會問題モ亦富ノ分配ノ不均ヲ骨子トナスモノナリ、富ノ分配ノ宜シカラザル原因ハ土地農業制度ノ變遷ト商工業ノ發達トナリ。古井田ノ制アリシガ遂ニ消滅シ土地兼併ガ盛ニ行ハル、ニ至レリ又昌ニ開墾事業ガ行ハレテ土地私有ガ増加セリ是レ農業制度ノ變遷ナリ、當時貨幣ノ流通昌トナリタルノミナラズ大仕掛ノ生産ガ發生シ、商工業ノ面目一新セリ。コノ社會問題ノ解決救済ニモ種々ノ主義併ビ存シタリ(一)限田主義トモ稱スベク土地所有ニ制限ヲ置カント主張スルモノ(二)抑商主義(三)復古理想主義是レナリ。トテ之ヲ詳細ニ説明シ、歴史ノ研究ニ從事スルモノハ宜シク普通的事實ト特種的事實トヲ區別シ、東洋諸國ノ經濟的發達ニモ夫々特有ノ點アレバ歐米先進國ノ文明ヲ輸入スルニ當リテハ各國ノ國民性ガ經濟上如何ニ特異ノ働ヲナスカニ注意セザル可ラズト論結セリ。

第六席鈴木學士登壇「我國勞働爭議ノ特質」ノ題ノ下ニ、先ヅ我國ノ同盟罷工ニ關スル統計的材料缺如セルガ故ニ勢實驗ニ本キテ此種ノ問題ヲ解決セザル可ラズト説キ其特質トシテ次ノ諸點ヲ舉グルヲ得ベシ(一)我國ノ勞働者ニ健實ナル組織ナキコト、(二)調停仲裁ノ機關ナキコト(三)同盟罷工者ハ法律上罪人トセラル、コトナリ、蓋シ我國ニハ古來主從關係アリ其長所ハ上下一致スルニアリ其ノ短所ハ上ノモノ權力ニ由リ下ノモノヲ壓スルニ在リ近時工業組織ノ變革ニ伴ヒ主從關係ノ長所ハ之ヲ見ルコト少クシテ獨リ其短所ヲ見ルコト難シ、故ニ主從關係ニ由リテ本問題ヲ解決セントスルモ其效ナカラン特ニ一方ニハ教育ノ普及スルアリ一方ニハ生活難ノ生ズルアリ、益々勞働者ノ反抗ノ氣運ヲ助長スルナリ、從テ我國ノ勞働爭議ハ經濟上ノ問題トイハンヨリハ感情ノ問題ナリ人格尊重ノ問

題ナリ。故ニ本問題ノ解決トシテハ(一)職工ノ人格ヲ認ムルコト(二)職工ト資本家トノ意思感情ノ疏通ヲ計ルコト(三)健全ナル勞働團體ノ發達ヲ計ルコト(四)工場法ヲ實施シ治安警察法ヲ改變スルコト等ナリト論ゼリ。

第七席山内法學士登壇「人ノ集中ト勞働問題」ノ題ノ下ニ近年人口ノ増加ニ伴ヒ都會膨脹ノ結果ヲ生ズ、コレ等増加セル人口ハ都會ニ於テ商工業ニ從フナリ。現ニ歐洲ノ都會ニ住スルモノ七八割ハ商工業ニ從事スルナリ。都會人口ガ集中スル結果(一)不衛生の事項ノ増加(二)過度ノ勞働(三)病者殊ニ狂人ノ發生(四)變質者ノ發生(五)簡易ナル娛樂機關殊ニ活動寫眞ノ隆盛等ノ顯象ヲ見ルトテ多クノ事例ヲ引イテ之ヲ證明シ更ニ轉ジテ、多數ノモノガ群居スル時ハ自然利害衝突ノ機會ヲ多クス同盟罷工ガ多ク都會ニ發生スルハ畢竟之ガ爲ニシテ、北米合衆國ニ於テ比較的コノ種ノ顯象ヲ見ルコト少キハ其工業ガ

諸方ニ散在スルガ故ナリ、而シテ同盟罷工ガ比較的世上ノ注意ヲ惹クコト多キハ(一)同盟罷工ガ多ク公共事業ニ發生スルコト(二)同盟罷工ガ國境ヲ越エテ他國ニ影響ヲ及スガ爲ナリ。特ニ近年社會ノ中堅タルベキ中流階級ガ漸次過激的傾向ヲ生ジタルハ最モ憂フベキコトニテ、中流階級ノ健實ナル發達ト都會集中ノ弊害ノ矯正トハ吾人ノ最モ注意スベキ問題ナリト信ズト述ブ。

佐野法學博士ハ登壇シ、予ハ「銀行ノ社會觀」ノ題ニテ卑見ヲ述ブベキ筈ナリシガ時間ナキガ爲ニ之ヲ中止シ卑見ハ之ヲ論叢中ニ掲載セント欲ス幸ニ諒セラレンコトヲ請フトノ挨拶アリ。

第八席添田法學博士登壇「資本ト勞力トノ調和」ノ題ニテ、資本ト勞力トハ性質上同一物ナリ、然ルニ現時ハ分レテ熾シニ戰ヘリ。其衝突ノ原因ハ(一)産業革命(二)貧富ノ懸絶(三)勞働者ノ自覺(四)生計ノ困難(五)學說ノ變遷(六)民

主々義ノ發達等ナリ就中民主々義ノ發達ヲ以テ顯著トス。特ニ近年ニ至リテハ漸次過激破壞的色彩ヲ帶ビ來レリ。米國ノI.W.W.ノ運動ノ如キハ其ノ例ナリ。而シテ歐米先進國ハコノ問題ノ爲ニ大ニ苦シミツ、アリ。然ルニ翻ツテ我國ノ狀況ヲ見ルニ、歐米先進國トハ大ニ趣ヲ異ニス、産業モ尙幼稚ニシテ勞働者ノ自覺モナキハ前論者ノ説クガ如シ。然レドモ其ノ弊ノ未ダ甚シカラザルハ我國ノ幸福ナレバ宜シク先進國ノ覆轍ヲ鑑ミテ、其ノ短ヲ捨テ其長ヲ採ルニ勉メザル可カラズ、勞働爭議ノ調停仲裁ニハ自ラ道

アルベシ然レドモ之ヲ既發ニ醫センヨリハ寧ロ其本源ニ遡リテ勞働爭議ノ如キ問題ヲ生ゼシメザルヲ可トス。予ハ此問題ヲ解決スルニハ情誼ヲ外ニシテ他ニ道ナキヲ信ズ、予ノ年來主從關係ノ文字ヲ用イタルモノ意實ニコ、ニアリ。予ガ情誼ヲ説クヤ或ハ之ヲ迂遠トシ或ハ之ヲ誤謬ナリトナスモノアリト雖モ、コノ論ヤ資本ト勞

力トノ調和ヲ目的トスルモノナレバ進化論ニ徵スルモ近世科學ノ「エナジー」論ニ由ルモ決シテ誤レルモノニアラズ、我國經濟學者ハ先進國ノ解決シ得ザル問題ヲ捉ヘテ充分ニ解決シテ我國經濟學ノ眞價ヲ宇内ニ發揮スルハ實ニ快心ノコトニ非ズヤト結ベリ。

以上ヲ以テ當日ノ講演ヲ畢リ來賓並ニ會員ハ相携ヘテ樓下ニ懇親會ヲ開キ談笑裡ニ夜ノ更クルヲ知ラズ、其ノ模様ハ福田博士ノ記事ニ讓リ本會ノ益々隆盛ナルヲ賀スルト共ニコ、ニ筆ヲ擱クニ當リ遠來ノ會員諸氏ノ熱心ヲ謝セザルヲ得ズ。本會ノ如キハ、京都大學ヨリ田島、内田、山本ノ三氏、神戸高等商業學校ヨリハ津村、内池ノ兩氏、長崎高等商業學校ヨリハ内山氏、東北大學ヨリハ高岡氏、更ニ小樽高等商業學校ヨリハ坂本氏ノ來會アリ爲ニ本會ニ光彩ヲ添ヘラレタルハ特筆大書シテ其勞ヲ謝セザル可ラザルナリ。